

岸壁に咲く花は、栄養のほとんどない浅い土の上で咲き誇ります。厳しい環境ですからそこで芽を出し、花を咲かせ実を結ぶことができる種はもしかすると1,000個に1個の確率かもしれません。しかし花たちはそこで生きることをあきらめず頑張って繁殖します。私たちもこの岸壁の花のように、諦めず多くの中で実を結ぶ1つになりたいものです。しかしそのように思っている、私たちは時に人生に諦めを感じてしまうことがあります。人生の素敵なことというのは、たいてい最後のほうで起こることを私たちは知っており、誰もが諦める人生はしたくないと思っています。諦めることがだめなことも分かっています。しかしそのような中で私たちは度々、過去を思い夢んでしまったり、もうだめと決めつけて諦めてしまったりします。あなたは諦めていませんか？今日はダビデの賛歌をとおして、今あなたのいる環境でどう生きるかをみていきます。

詩篇23：1-6はダビデが自分の愛する王、サウルに裏切られ命を狙われながら、荒野を逃げ惑っていたときにつくった賛歌です。ダビデはそのことで30年間苦しみますが決して諦めることをしませんでした。サウル王の命をとる機会もありましたが彼はそこで命をとる選択をしませんでした。なぜなら自分がどんな目に遭わせられようとサウルは神様のたてた王だったからです。ダビデはどんな状況にあっても、ただ神様に向けて歩いていました。だからどんな困難な状況に置かれても「自分は神様によって緑の牧場に伏させてもらっている、敵の前でも食事をととのえてもらっている」と主を誉め讃えることができたのです。聖書には途中で諦めて腐った人と、ダビデのように諦めずに耐え忍んでその場で咲いた人が出てきます。あなたはどちらだと思いますか。教会に来ている人は辛い中であっても頑張って良いものを見出そうとしている人ですから諦めた人ではありません。では今、あなたは置かれた場所で咲いているでしょうか。あなたは自分の置かれている場所が分かっていますか。もしも今、本来愛さなければいけない人を愛せない、良いことを伝えなければいけないのに伝えられない状況にあるならば、あなたは自分のいる場所を見失い、自分のいる場所が本当は増え広がる素晴らしい場所なのにそうではなく悪い場所であると思っているのかもしれませんが。

また、この主題にある「おかれた場所で咲く」という言葉を語った人がいます。ND清心学園理事長であり修道女の渡辺和子さんです。彼女は昭和11年に起こった二・二六事件で教育総監であった父を目の前で殺されます。そんな彼女の人生は波乱に満ちたものでしたが、その中で神様に出会います。洗礼を受け、36歳には異例の若さでノートルダム清心女子大学の学長に就任します。人間関係で悩むこともありましたが、うつになることもありましたが、しかし彼女は「置かれた場所で咲きなさい」という言葉のとおり、目の前で起こるさまざまな苦難に腐ることなく神様と共に乗り越えていったのです。そして今、多くの人々に受け入れられています。人が生きることを諦め、腐ることは簡単です。でも彼女はそれをしなかったのです。その自分の置かれた場所で咲いたのです。

ですから私たちも置かれた場所で咲かなければいけません。今あなたは、人間的に見れば悪い場所にいるようにみえるかもしれませんが、あなたのいる場所は将来と希望を与える場所で、決して悪い場所ではありません。なぜなら神様はあなたを一人にはされないからです。今まで辛いこともあったかもしれませんが、失敗もたくさんしたかもしれませんが、しかしそのような中で神様はあなたに、これからをわたしと共に歩みなさいと語られています。あなたは神様と共に歩む人生を選びますか。それとも自分ひとりで歩む人生を選びますか。あなたの今は過去の苦しいところを通ったからこそあるのです。そして神様の栄光を受け取るために、今ここにいるのです。ですから、幸せの花を咲かすために次のことを行っていきましょう。**1. 過去を恐れない** あなたはマイナスな思いで生きていませんか。変わりたいと思っているのに過去の失敗から踏み出すことに恐れがありませんか。何もせず今のことしか考えられなくなっていませんか。それではなにも変化は起こりません。しかし、神様と共に歩めば変わることを私たちは知っています。ですから先に知った私たちはそのことを伝えていかなければいけません。あなたの失敗をプラスに変えていきましょう。イエス様は私たちの過去の罪、過ちを背負うために十字架にかかられました。ですからすべての重荷を神様に委ねましょう。神様は雅歌2：10-14で、恐れずに重荷を置いて出ておいで、と語られています。**2. 置かれた場所で喜びを！！** 私たちは置かれた場所で不足を感じることもできれば、喜びを感じることもできます。あなたはどちらを選んでいるでしょうか。詩篇126：5,6にあるように私たちは収穫のために涙をもって種を蒔くことがあります。しかしそれが喜びに変えられることも私たちは知っています。また1コリ10：13にあるように神様は試練とともに脱出の道を備えてくださいます。ダビデも荒野で辛い時期を過ごしました。しかしそのような中であっても彼はいつも主にあって喜んでいました。それは辛い状況にあるからこそ神様に慰められることを彼が知っていたからです。ですから私たちも困難な状況にあるときに喜びを見出していきましょう。**3. 共に咲き合う** 「幸せ」とは、花が咲き合って東になることが源語です。つまりあなたが幸せになるためには咲かなければならないのです。そして咲くためには種を蒔かなければいけません。種を蒔くことを惜しんで蓄えていては、いつまで経っても実は結べません。蒔き、咲いてこそ初めて実を結ぶのです。そうやってあなたが咲けば、あなただけでなくあなたの周りの人もあなたをみて幸せになります。幸せとはともに咲き合うことなのです。ですから人は一人でいてはいけません。神様は人を一人で生きるようには創造されず、人に助け手を与えられました。共に喜び合い、支え合い、助け合う。共に笑い、苦しいときには励まし合い、誤っているなら戒め合い、また愛し合う。教会はそんな家族が集まる場所であり、そのような人を神様はあなたに与えてくださっています。ですから過去に目を向け不安になるのはやめましょう。私たちは裏切ったり失敗したりします。後悔することもあります。しかしイエス様は私たちを決して裏切ることはされず私たちの全ての罪を背負われました。それによって私たちはたとえ失敗しても悔い改め、正しい道を歩むことができるようになったのです。これから先、後悔することもあるかもしれませんが、ですがそこで悩むのではなく、どうしたらよいかを考えて歩みましょう。それが種を蒔くということです。どんな状況にあっても諦めず、落ち込まず、向きを変えて過去のどんなことも、神様を信じて委ねていきましょう。そうすればダビデが賛美したように、あなたのいのちの日の限り、いつくしみと恵みとがあなたを追ってくるのです。(要約者：金光 瞳)